

令和3年8月(2021年) No.668

課題コン「窓」に11作品集まる

最優秀作品賞は山本会員の手

毎年恒例の課題コンは、宮中歌会始めの来年度の「お題」に合わせて、わがOMCもその「お題」を入れた題名の映像作品を作るというもので、今年のテーマが「窓」だったので簡単そうで案外まとめ難いのではないかと危惧していたが、予想以上の11作品の応募があった。

会員の減少とコロナ禍のもとではあるが、会員諸氏、良く頑張って作ってくれたと感謝申し上げたい。

上映はくじ引きで順番を決め、出席者一人3票の枠で投票、1位3点、2位2点、3位1点の配点で得票順を決めた結果、次の通りの成績となった。入賞者及び応募者全員に会長より記念品(BDディスク)が手渡された。

■ 最優秀賞	山本正夢	・千の窓の町	BD	08分10秒
■ 優秀賞	高瀬辰雄	・風鈴寺の猪目窓	BD	06分00秒
■ 秀作賞	合原一夫	・「窓」という課題	BD	13分56秒
■ //	関 剛	・ゴールデンパスの車窓から	BD	11分00秒
■ 努力賞	紙本 勝	・牛窓	BD	08分10秒
■ //	上総修一郎	・我が家の改築「窓」	BD	10分58秒
■ //	進藤信男	・My Shack(マイシャック) 「窓を開けるとアンテナが見える」	BD	11分10秒
■ //	中川良三	・運河の街アムステルダム 船窓より		12分09秒
■ //	江村一郎	・窓	BD	07分30秒
■ //	坪井仁志	・麗しき五月の窓風に誘われて		02分50秒
■ //	中村幸子	・狭庭の移ろひ	BD	03分10秒

以上

8月例会のお知らせ

- 通常例会；第4土曜日28日18時より、難波市民学習センターにて、暑い盛りですが会場は冷房が効いていますのでご配慮を。

再び緊急事態宣言発令だが例会場は今まで通り

若い人たちの間でコロナ禍が拡がって、再び緊急事態宣言が8月2日より31日迄の間発令されましたが、難波市民学習センターでは閉館することなく、従来通り、夜の9時まで開館しますとの事です。従って8月例会は、予定通り行います。

OMCフェス 出品作品決まる

このほど幹事会を開き、10月3日(日)中央会館での映像フェスティバルの出品作品が決まりました。

尚、パンフレット印刷の納期がありますので**コメントは36文字以内で岡本副会長にメールで、作品は、進藤様にお送りください、期限は8月10日厳守**でお願い致します。

課題コン「窓」総評

会長 合原一夫

今回課題コンのテーマ「窓」の入った題名でのコンテストであったが、飛び抜けて「窓」に相応しい作品が無かったのは少し残念だった。「窓」という静物を生かして作品づくりをするのは、やはり難しかったのではないかな。

最優秀作品に選ばれた山本さんの「千の窓の町」はアルバニアへの旅物語で、それはそれでよい作品であった。トーチカの残骸が多く残っており、その窓から見た風景も往時を忍ばせるものがあった。

最も「千の窓の町」の意味は整然と並び建つ中世の住宅の窓の事らしい、確かに斜面に立つ窓の多い住宅の群れは確かに見応えがある眺めであった。異国情緒たっぷりの作品をいつも拝見し楽しませて頂いている山本さんならではの作品であった。

高瀬さんの「風鈴寺の猪目窓」、宇治のお寺さんとのことでハート形をした窓が茶室にあり、その窓から外の風景が見えるという、今回のテーマにピタシの「猪目窓」、よくぞ見つけれられたもの。その寺は風鈴をたくさん吊るして音を楽しむという変わったお寺さん。もともと「猪目窓」、を主役にするなら、風鈴の印象が強すぎるので、「猪目窓」の前に座っていると、風鈴の音がどこからともなく聞こえてきて…風鈴→再び「窓」というように風鈴と絡めて描く、といった作品構想も考えられたのではないかな。しかしよく風鈴寺を描いた作品であった。

私の作品「窓という課題」近頃では、真正面から向き合って制作したものだが面白みに欠けた作品になり、一般の人が見て少し退屈されたのではないかと反省している。

関さんの旅行もの「ゴールデンパスの車窓から」はスイスの山岳地帯を走る列車の中から見た風景だが、スイスらしい風景と列車の旅を大いに楽しく見させて頂いた。

紙本さんの「牛窓」は、ずばり岡山県の瀬戸内海に面した町の名前である。4対3の映像なので十数年前に行かれた旅の記録であろう。漁港、古寺、三重塔、灯台、夕景等々、よき旅の映像であった。

進藤さんの「My Shack 窓を開けるとアンテナが見える」(マイシャック)はアマチュア無線局に関する話で、「窓」が入っていない題名でもあり、力作ではあるが、一工夫ほしかった。我が家の「窓」から見るとアンテナが見える→そのアンテナから話が進む、とすれば題名も「窓から見えるアンテナ物語」等でもよかったのではないかな。

上総さんの「我が家の改築“窓”」はご自宅の改築の記録で、台所から見えるところに窓をこしらえたときの工事の記録。これはこれで、我が家の記録として貴重な映像になるかも知れない。

中川さんの「運河の街Amsterdam 船窓より」も旅の日記であり、アムステルダムの雰囲気をも合わせて頂



いた。

江村さんの「窓」、いろいろと窓から眺めた風景を集めたもので、つなぎの工夫が欲しかった。

坪井さんの「麗しき五月窓風に誘われて」センスの感じられる作品だが花等、小窓の枠を画面の周囲に配したらどうだろう。

中村さんの「狭庭の移ろひ 夏の風」窓という字が入っていないので、まず題名の工夫が求められる。「窓から見える季節の移ろい」など如何でしょう。

7月通常例会レポート

7月例会は第4土曜日24日18時より大阪市立難波市民学習センターにて開催。コロナ禍が治まらない中、前日東京オリンピック開会式が無観客の中行われた。さて、例会の話だが、コロナ禍の事もあるが、会員諸氏の高齢化もあってか、集まりが悪い、盛会時の半分になった。もともと熱心に作品を作っておられる10名近くの方の出席もよく、作品もまざまざ出て、例会の方は何とか楽しくやっているが、皆元気で続けていってほしい。

今月の書記役は、本来は退会された堀皓二氏であったが、合原会長が代行された。

■ **運営担当**：司会 進藤、書記 合原、映写 岡本、メモリー記録 江村、受付 照明 森下、宮崎
YouTube 関係 中川の各氏

■ **出席者**：江村、岡本、紙本、合原、関、進藤、高瀬、中川、森下、宮崎、山本の11氏

上映作品（書記は合原会長）

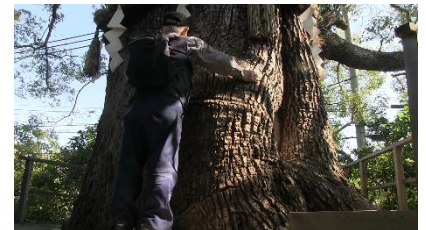
1、古都の巨木は木霊が宿る BD

紙本 勝 9分40秒

<作者コメント> 高良神社のタブの木、熊野神社のクス、西本願寺のイチョウの古木には、木霊が宿ると云われるが、そんな雰囲気を感じられるところであった。

<会長コメント> 大阪府下の巨木シリーズを終えて、今度は京都府の巨木シリーズに着手されました。あちこち出歩いて撮影されていることは、健脚の証でもあり、今後ともお元気で映像を楽しんでいってほしいと願っております。

樹齢400年とか700年とか、樹の寿命は一体どうなっているんだろうかと思ってしまう。できれば近所の人に、巨木にまつわるお話を聞くことが出来れば奥行きが深まると思うのですが。



2、烏帽子形神社 消火訓練 BD

中川良三 7分52秒

<作者コメント>

2021年の河内長野にある烏帽子形八幡宮の消火訓練の様子を収録。私の住む団地で火事が発生、幸い大火にはならなかったが、周辺は騒然としていた。その火事現場と、神社の消火訓練の様子とを比較して見てもらえれば、実際の現場の雰囲気と訓練の様子を比較ができるのではと思いました。

<会長コメント>

トップシーンの団地の火災は、実際に火の出ている場面はないので、字幕に「幸い大事には至らなかった」と入れてほしいところ。一方、近くの神社はかねてより氏子たちによる消火訓練が行われている様子が描かれています。以前は消防団と云えば元気のいい若者中心だったが、今は高齢者ばかりのようです。この神社では立派な消火施設が整っていて、毎年訓練しているということから、この神社も一安心でしょう。

この作品も、出来れば責任者の宮司さんのひと声がほしかったと思います。



3、ニーハオ雲南 B D
合原一夫 14分50秒

<作者コメント>

中国雲南省はネパールや印度に近く、一方では少数民族の多い省である。省都昆名からバスで400km、農村地帯を訪ねながら、大理の町（大理石採れるところ）の三月街のお祭りという少数民族、年一度の祭りに行ってきた。素朴な農村風情に触れた旅であった。



4、令和よさこい・全国大会 B D
江村一郎 8分00秒

<作者コメント>

2年連続中止となってしまった高知のよさこい祭り2019令和版。花火大会と前夜祭のあと本祭に続く「全国大会」を取り上げた。この年は外国人が参加する国際チームも見る事が出来た。



この先しばらくはこの様な全国大会は難しいと思われるので、私にとって貴重な映像となる。

<会長コメント>

コロナ禍直前の令和元年の高知よさこい祭り、マスクなしの若者たちの熱気が伝わってきます。この作品「全国大会」とあって地元チームは入っていないとか。

しかし時々〇〇県と書いたプラカードが無かったら、どこのどんなチームなど判りません。どの県のどんなチームが優勝したんでしょうね。そんなことが判るカットとそれを喜ぶメンバーの姿が表現されていれば、いわゆる「全国大会」らしい雰囲気盛り上がったのではないのでしょうか。

5、花の寺 久安寺 B D
進藤信男 11分40秒

<作者コメント>

久安寺は、この度も二回訪れたが、何度目かの取材だった。その昔、ここを訪れた行基菩薩が、池の水面に映る小観音を感得し、時の聖武天皇の頼願を受けて前身となる「安養院」を開創したという。この天平時代は天然痘大流行、早魃・飢餓、大地震などが続いていた。何とか人心と社会の安定を願って大仏建立に尽くした時だったに違いない。現在の疫病コロナ禍とは異なるものの、どこか通じるものを感じた。



久安寺は、開創の後、平安時代の末には全伽藍の消失、幕末には大嵐・台風により、1院を残し山門から本堂、48院の全てを失った。二度にわたる存続の危機を乗り越え、今の建物は全てその後に再興したものだという。夏のこの時期、弥勒山山頂の弘法大師像迄の登りはきつかったが、各堂宇とも質素に祀られている。訪れたのは普段の日ながら、本堂ではご本尊を開帳しているなど秘宝とするところが多い中で、開放的で信仰心の強さを見るような思いがした。

<会長コメント>

池田市にある久安寺を精力的に撮影されており、その熱意に敬意を表しますがノンナレーションで字幕だけに頼られた作品構成にしては、少し判りづらい処があります。各論が先行し総論がおろそかになった感があり、伝えたいことをメインに強弱を付けて絞り込みたいところです。

6、ピサ斜塔 B D
山本正夢 7分50秒

<作者コメント>

ドゥオーモ大聖堂の鐘楼として14世紀に完成、しかし建設途中から傾



きはじめ、斜塔として有名になる。

<会長コメント> ピサの斜塔を背景に、支える格好した観光客がインスタ映えするように写真を撮っている姿が、印象的でした。

7、華岡青洲の里・青洲まつり BD

岡本至弘 15分00秒

<作者コメント>

平成20年12月例会に出品した作品です。当時は17分40秒の作品で講評を調べてみると、少し長すぎるとありましたので15分に縮めました。コロナ禍で出掛けられない中、旧作品の改作です。

和歌山紀ノ川市、華岡青洲ゆかりの里で町おこしとして行われていた「青洲まつり」取材したものです。この頃は4:3の作品が消えゆくところで、旧カメラで撮影したものです。

<会長コメント>

華岡青洲の話は有名な実話で心を打つ内容がありお芝居でも取り上げられています。この部分を文献等で調べて掘り下げた脚本が出来れば立派なドキュメンタリー作品になりますが、これには多くの労力と時間を要しましょう。この作品、青洲に御嫁入をする行列を演じたお祭りパレードに終わっているのが物足りないことです。



8、当尾曼陀羅 BD

関剛 5分45秒

<作者コメント>

かつてのOVCの撮影会作品。京都と奈良の県境付近のド田舎へバスで行った記憶がある。5kmほど歩かされ疲れた撮影会だった。



9、紙吹雪舞う拳母祭り BD

高瀬辰雄 8分40秒

<作者コメント>

2019年11月映写の「拳母祭り」を「とよた映像大賞」コンテスト出品で7分以内に短縮再編集し「紙吹雪舞う拳母祭り」に改題。さらに今回、再々編集し8分40秒としました。愛知県豊田市の400年の伝統を持つ祭り。山車から撒かれる紙吹雪の量が半端ではなく、それが魅力にもなっています。



7月第二例会

- 運営担当：司会 進藤、書記 高瀬、映写 中川、メモリー記録 江村、受付 照明 森下、宮崎の各氏
- 出席者：植村、江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、関、高瀬、中川、宮崎、森下、山本の13氏
坪井、中村の2氏は作品のみ

上映作品(書記は高瀬氏)

1. 京都・桜の頃 BD

江村一郎 8分12秒

(作者コメント)

前回の「春・平安神宮」と姉妹編。テーマのしだれ桜も同じ、くろ谷にある法然上人の浄土宗大本山、光明寺から会津墓地、そして朱塗りの大鳥居から白川沿いに四条河原町へと春の京都を巡る。

(書記コメント)



新選組発祥の地、金戒光明寺を出発点に桜咲く京都を四條河原町まで訪ねられ、桜の映像と共に憩う街の人々を独特のタッチで描写されている。

2. 郷愁 B D
中村幸子 10分35秒

(書記コメント)

兵庫県龍野市を旅されての作品。鶏龍山山頂の龍野山城跡から麓に移った龍野城。平清盛と高倉上皇が厳島神社詣での際、立ち寄った賀茂神社。醤油、手延べそうめんの町としての龍野。そして童謡赤とんぼの作詞者、三木露風と盛りだくさんの内容。それぞれが一つの作品に出来そうです。それを郷愁というタイトルでまとめ、7分で表現するのはなかなか難しいと思います。



3. 龍勝紀行 B D
合原一夫 9分08秒

(作者コメント)

中国桂林から車で3時間、そこは山の中、少数民族チワン族の村。展望台からの棚田の風景がいいというので、初体験カゴに揺られた登り降りの旅。若者達の稼ぎへの協力だったが、村の素朴な出合いは暖かいものがあった。



(書記コメント)

あまり有名な観光地でもない山の中の少数民族の村を訪ねられ、カゴを担ぐ若者に思いを馳せたり、素朴な料理に触れるなど、作者の貴重な体験がそのまま伝わる作品。

4. 2021 祇園祭 祇園囃子戻る B D
高瀬辰雄 8分58秒

(作者コメント)

昨年の祇園祭はコロナ禍で鉦建て、山鉦巡行は中止となったが、今年は伝統技能の伝承を目的に2年ぶりに鉦建て、祇園囃子の演奏が行われた。ただしコロナ感染防止から見学は自粛を要請されており、ゆっくり撮影するには多少憚れるが、可能な限り撮影、月鉦、函谷鉦、放下鉦の鉦建て、祇園囃子を中心にまとめてみました。



5. 花蓮を訪ねて B D
山本正夢 7分35秒

(作者コメント)

3カ月前、台湾の花蓮で大きな列車事故がありました。以前訪れた時の旅行を思い出し、編集しました。

(書記コメント)

歴史的事件の跡や、戦争のつめ跡などが残る花蓮の町を台湾の歌にのっていつもの観光旅行にとどまらないカメラワークで表現されている。



6. 三井の晩鐘 B D
関 剛 6分42秒

(書記コメント)

近江八景の一つ三井（園城寺）の晩鐘をテーマにされている。境内の静かな紅葉の景色から徐々に寺内の仏像などへ盛り上がり、後半は天下の三銘鐘の一つに挙げられる梵鐘、そして琵琶湖の夕景へと心象的に描かれた作者ならではの作品。

